

## ビール麦「彩の星」の栽培法

### 1 はじめに

ビール麦は、おいしいビールを作るため子実タンパク含有率の目標値が10～11%（許容値 9.5～11.5%）に設定されています。一般的に国内で栽培されているビール麦は子実タンパク含有率が上がりやすい傾向にありますが、埼玉県産ビール麦では逆に低くなりやすい傾向です。そこで、ビール麦「彩の星」において、安定的に目標を達成するための苗立数を明らかにし、追肥法を開発しました。

### 2 「彩の星」の栽培法

#### (1) 苗立数

苗立数が多いと、収穫量は年次によっては増加する傾向がありますが(図1)、子実タンパク含有率は明らかに低下します(図2)。目標の子実タンパク含有率を達成するための適正な苗立数は100～150本/m<sup>2</sup>です。

なお、苗立数100～150本/m<sup>2</sup>とする播種量は、概ね5～6kg/10aに相当します。

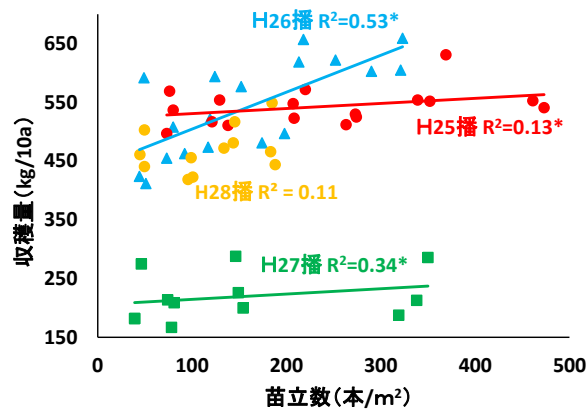


図1 苗立数と収穫量

注) 平成25～28年播種の調査結果。\*は5%水準で有意。

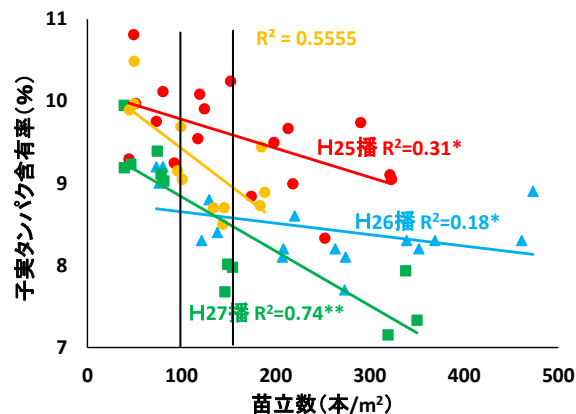


図2 苗立数と子実タンパク含有率

注) 平成25～28年播種の調査結果。\*は5%、\*\*は1%水準で有意。

## (2) 追肥

「彩の星」は、2月上旬～麦の茎立期(概ね2月下旬)の追肥で収穫量が増加します。また、茎立期～出穂期(概ね4月上旬)の追肥では子実タンパク含有率が向上します(表1)。

このため、追肥は、前年までの子実タンパク含有率が目標値より高い場合には2月上旬までに、低い場合には茎立期に、2kg/10a(N)を施用します(表1)。

特に、茎立期の展開第3葉の葉色(SPAD値)が45以下の場合、子実タンパク含有率は目標値を下回るので、茎立期以降に必ず追肥します(図3)。

表1 追肥の時期と効果

追肥時期	収穫量	子実タンパク含有率
2月上旬	11%増収	効果なし
茎立期 (概ね2月下旬)	18%増収	0.5ポイント向上
出穂期 (概ね4月上旬)	効果なし	0.5ポイント向上

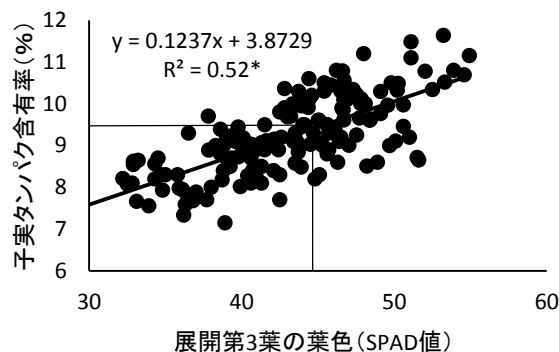


図3 葉色と子実タンパク含有率

注) 葉色(SPAD値)はミノルタ葉緑素計 SPAD502Plus を用いて、展開第3葉の葉身中央部を測定した。

\*は5%水準で有意。

### 【問い合わせ先】

農業技術研究センター 高度利用・生産性向上研究担当 水田高度利用研究

電話：048-594-8321 (玉井試験場代表) FAX：048-532-3113

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0909/index.html>